

企画概要

事業実施に至る経緯と背景

「大宮賀茂界わいまちづくり会議」の1メンバーから「まち興しのため学生の力を貸してほしい」という依頼を受けて、「京の輪プロジェクト」を結成。一年目はサタデー・ジャンボリーへの参加や、地域を知る勉強を兼ねて自治会の会議、まちづくり会議にたびたび参加した。二年目には、京の輪プロジェクトの認知度を高め、活動が学術的であることを確証するため「学術シンポジウム」を行い、そして今までの活動の集大成として、上賀茂神社の「七夕まつり」への協賛を決めた。

結果報告

2006年6月24日「サタデー・ジャンボリー」への参加

場 所：京都産業大学 総合体育館玄関ホール

時 間：11:00～16:00

来場者数：約160名

内 容：七夕まつりで使用する「みこし」(京都工芸繊維大学の1学生が卒業制作として作ったものを譲り受けた)に飾る絵馬を、訪れた子供達に描いてもらう。

絵馬のテーマ：「出会い・つながり」

上賀茂神社の神紋である二葉葵は、現在絶滅の危機に瀕しており、その再生活動と共に地域のコミュニティーを強化する動きが盛んになっている。それらのことから、二葉葵をきっかけとしてこのテーマに決めた。合計192枚の絵馬を作成。

2006年7月7日「学術シンポジウム」の開催

場 所：上賀茂神社 庁屋(重要文化財)

時 間：13:00～15:00(予定を30分延長し、15:30終了)

来場者数：約30名

講演内容 テーマ「みこしづくりは地域融合のきっかけとなるのか？」

・京都産業大学 所功教授

テーマ「カモ・マツリ・ミコシの再発見」

・大阪経済大学 梅辻諄教授(京都市指定有形文化財 梅辻家当主)

テーマ「社家について」

・上賀茂神社権禰宜・安井正明氏

テーマ「二葉葵について」

パネルディスカッション

パネリスト：所功氏、梅辻諄氏、安井正明氏
上賀茂自治連合会会長 藤井慶一氏
柘野町内会連合会副会長 松本儀一氏
大宮町内会連合会会長 松宮啓祐氏
コーディネーター：京都産業大学 市川貢教授

先生方の講演をもとに、まずどのようなみこしづくりが可能かということについて意見をうかがった。すでに各地域にはみこしが存在している。その運営だけでも大変であるのに、新しいみこしを作ってそれを続けていくことが出来るのか？ということが問題として上がった。みこしづくりを推進する学生の情熱が続かなければいけないし、先の見通しが必要である。また、みこしだけでなく、まつり全体をプロデュースすることが必要ではないかという話にもなった。京都産業大学周辺に下宿する学生が、「自分たちも地域の住民である」という意識を持つきっかけとして、みこしというツールを利用できれば良い。

今後の展望としては、上賀茂神社が中心となり、上賀茂・柘野・大宮の三地域と大学でみこしづくりを話し合う場を作り、地域と大学の連携の仕組みを作っていこうという提案がなされた。

2006年8月5日「七夕まつり」の開催

場所：上賀茂神社 馬場殿前

時間：13:00～15:00

来場者数：約300名 上賀茂神社の七夕まつりに協賛する形で参加した。

七夕まつりスケジュール

10:00～13:00 世界文化遺産にふれよう、あそぼう、上賀茂神社に集まろう

(神社散策 雅楽鑑賞 神話)

13:00～15:00 子供縁日(スーパーボールすくい・輪投げ・ヨーヨーつり)

ものづくり教室(万華鏡作り・うちわ作り・短冊作り)

子供縁日では、地域のボーイスカウトの子供たちに店番を手伝ってもらいながら、子供たちとの交流をはかった。チケットを四枚つづり(スーパーボールすくい、輪投げ、ヨーヨーつり、うちわ・短冊作り)で200組を作成、無料で配布した。

ものづくり教室では、万華鏡作りのチケット60枚を無料で配布。13:30、14:00、14:30の三部に分けて、ものづくり教室を開催した。

15:00～15:30 みこし巡行

サタデー・ジャンボリーで子供たちに作成してもらった「絵馬」を飾ったみこしを、学生が担ぎ、上賀茂神社の一の鳥居と二の鳥居の間を巡行した。みこしの巡行のみの予定だったが、和太鼓集団と高知県のよさこい団体も参加して、共にみこしを担ぎながら練り歩くことになった。

15:30～16:00 七夕まつり祭典(祈願祭)

まとめ

事業を通じて確認できた大学と地域の連携ポイント

- ・ポイント1「ほうれんそう」

地域、学校、その他連携団体への報告・連絡・相談を欠かさないことが重要である。

- ・ポイント2「京都産業大学生から地域へ」

京都産業大学が地域に働きかけるよりも、京都産業大学生が直接地域と関わることで学生の本音と地域の本音がぶつかり合うことができ、より地域の発展に貢献することができる。また、地域への学生の関心も高まる。

事業の成果

大宮・賀茂地域にありながら、関係が必ずしも十分ではなかった京都産業大学、上賀茂神社、上賀茂地区、大宮地区、柘野地区を、私たち京の輪プロジェクトが軸となりつなぎ合わせるきっかけを作ることができた。例えば、学術シンポジウムでは上賀茂、大宮、柘野、京都産業大学、この四つの団体で一つのみこしをつくることの実現に向けて意見交換した。今まではこのように集まる機会さえなかったが、学生が中心となり地域交流の機会をつくったことに意義がある。また、頻繁に地域の会議に参加し、上賀茂神社へ通うことにより、地域の方々に私たちの存在や意気込みを感じてもらうことができた。

課題と今後の展望

今回の事業での課題は、学術シンポジウムや七夕まつりの広報活動に十分な時間がかけられなかったことである。特に学術シンポジウムは、もう少し早めに広報をしていればもっと多くの参加者を集めることが出来たと考える。第一回ということで手探りの状態であり戸惑う事も多かったが、今後は私たちが作りあげた住民の方々との協力体制の基盤をもとに、毎年、旧暦の七夕まつりを継続的に支援していくことを「京の輪プロジェクト」の次なる目標としたい。

感想

この活動を通して、たくさんの方々との出会い、支えられ、普通の学生生活ではできない貴重な体験をすることができました。歴史と伝統のある地域に学生が入り込み新しい風を吹かせることは、そう簡単にはいかないという事実、初めは戸惑いましたが、根気よく地域に関わりを持ち続けたことで、地域の方々が私たちをひとりの大人として接して下さるようになったことに感謝しています。地域興しの活動を率先しているという責任の重みを感じつつ、シンポジウムを成功させ、七夕まつりに協賛するという活動を通じて、自分たちでやり遂げたという自信を持つことができました。この経験を今後にも生かしていきたいと思えます。